

小田原

まちづくり情報誌 City Of ODAWARA Public Relations

2011 MARCH
3 1日号

NO.1030
月2回:1日・15日発行

②環境(エコ)シテイ～はじめましょう 志民の力で“うるおう循環都市”づくり!～

⑤「市民の力で未来を拓く希望のまち」の実現に向けて／⑥大地の恵みに一工夫～小田原市農産物加工品普及推進協議会～／⑧地域とつながる幼稚園～市立幼稚園の子育て支援事業～／⑩おだわら情報／⑫小田原地下街再生を目指して／⑬〈連載〉市民力／キラリ若人!／⑭【対談】藍坊主／⑯〈連載〉あの日 あるとき 小田原

(○数字はページ番号です)





山



里

無尽蔵プロジェクト

環境(エコ)シティ

はじめましょう 志民の力で “うるおう循環都市” づくり!



街



川



海

無尽蔵プロジェクト・環境(エコ)シティからの提案

水

自然環境

自然環境の保全・再生・創造
森・川・海のつながり

豊かな水を育む森づくり

みんなで作る里地里山

自然な川の流れをもう一度

広い砂浜と多くの生物

湧き出る井戸水と水路のまち

活

活性化したまち

「生活文化環境」の伝承・創造
暮らしと価値観の見直し

生ごみから生(いき)ごみへ

海山川のごみをゼロに

まちの中に小さな森づくり

地域エネルギーを身近に

新たな交通システムの導入

水を大切に暮らす暮らし

上下水道の新たなシステム

生態系と調和した農林水産業

子どもたちがつながりを学ぶ場

癒しのエコツーリズム

心

人の取り組み

「鰯が戻ってきてくれるまち」を一つの象徴として森や川を再生し、水を大切に、緑豊かなまちづくりをすることで、私たちの命を守り育てる身近な自然環境を取り戻したまちを目指します。

その原因は特定されていませんが、沿岸の都市化や海岸線の変化、回遊経路の変化などが挙げられています。これから、私たちはあらゆる環境問題に取り組みながら、「鰯が戻ってきてくれるまち」を一つの象徴として森や川を再生し、水を大切に、緑豊かなまちづくりをすることで、私たちの命を守り育てる身近な自然環境を取り戻したまちを目指します。

多くの市民や団体が、小田原をより素晴らしいまちにしようと『自然環境の再生』や『生活環境の改善』に精力的に活躍しています。しかしこれまでは、お互いの存在やそれぞれの活動を知らず、情報の共有があまり図られていませんでした。無尽蔵プロジェクト『環境(エコ)シティ』では、小田原のさまざまな環境問題を多くのかたに知ってもらい、共にその解決策を考え、実践していける市民や地域の団体、企業、行政、研究者などを「志民」と表現し、その連携づくりを進めています。その輪の中で、多くのかたが集い、知り合い、つながって、『うるおう循環都市』づくりを推進しています。

環境政策課 ☎331476

目指せ、うるおう循環都市、森の再生から「鰯」の来るまちへ

環境(エコ)シティでは、小田原の環境の過去と現在を調査して問題を洗い出し、そして未来を考えました。

『自然な川を再生して豊かな砂浜を取り戻そう』『水路のまち小田原を取り戻そう』『街の中に小さな森をつくる』『新たな交通システムを導入しよう』『子ども達が命のつながりを学ぶ場をつくらう』などたくさんさんの思いを「つながる心」つながる命 うるおう循環都市」としてまとめました。

森の「潤い」は水によって、川を伝い、海に流れます。森が荒れ、川を遮り、人が水を汚せばどうなるでしょうか、かつて小田原は鰯のまちでしたが、昭和40年代前半を境に漁獲量は減少の一途をたどりました。

国の『緑の分権改革』調査事業に採択される

市では、総務省から『緑の分権改革』調査事業の採択を受けました。これは、地域資源を最大限に活用している市民団体の先行的・総合的な取り組みについて支援を行うものです。

この事業では、次の2つの事例をはじめとするモデル事業に取り組みとともに各分野で活動する環境（エコ）シティに参加する16団体などの連携を図っています。



① 環境再生プロジェクトモデル事業「身近な河川（下菊川）」

酒匂11区や南鴨宮4区をはじめとする周辺自治会では、環境保全活動の一環として、長寿会などに協力を仰ぎ、下菊川沿いの土手道を季節の花で飾り、道行く人が楽しめるように「花の散歩道づくり」を昨年5月から始めました。

季節ごとの「花植え会」や「草取り」、大道公園での「落ち葉の堆肥場の整備」など、参加者がともに汗をかきながら作業を進めています。

昨年11月末には、生ごみ肥料で育てた花の苗と小田原の間伐材で作ったプランター100個を環境（エコ）シティの別の取り組みから譲り受け、川沿いに設置しました。今まで見過ごされてきた廃棄物を資源として地域内で循環するよう示すことで、資源循環（リサイクル）

の意識啓発にもつながっています。現在は、周辺自治会との連携を図りながら、この取り組みをさらに進めるため、今後の計画を検討しています。



菊川をきれいにする会
大野実さん

南鴨宮第一長寿会
井藤英一さん

幼い頃は、この川でうなぎを捕まえて遊びました。昔みたいに、川がもっと身近に感じられるよう、岸に花を植えています。4～5月には子どもたちと一緒に、こいのぼりを掛けるイベントも計画中です。（井藤さん）数は多くありませんが、うなぎやなまず、しじみも確認できました。こういった生物がまだいることを、子どもたちにも知ってもらいたいですね。（大野さん）



② 環境再生プロジェクトモデル事業「身近な森林（荻窪地区）」

手入れ不足などにより荒廃した山林を、所有者・ボランティア団体・森林保全関係者が連携して保全し、森林が本来持っている機能を発揮させることを目指しています。

昨年10月と11月に開催した「間伐・木工体験」では、延べ50人以上のさまざまな立場のかたが参加し、間伐の各作業を通じ小田原の森林の厳しい現状を肌で感じるのと同時に、今後の方策について考えるきっかけとなりました。

市街地に隣接する身近な森林は、市民にとってかけがえのない『緑』であり、

生活にさまざまな恩恵を与えています。担い手の輪を広げることを目指し、今後子どもから大人まで多くのかたが保全活動を経験しながら森林の機能や現状を学べる環境学習の提供と、間伐材の利用、流通などの仕組みを構築していきます。



森のなかま
山本和子さん

間伐や枝打ちなどは、多くのかたに教えていただき、少しずつ技術を向上させることができました。当初2人で始めた活動でしたが、枝打ち体験教室にお子さんとともに参加された保護者が会員になるなど、徐々に会員が増えてきました。さまざまな出会いを経て、人と人のつながりがとても大切だと感じています。

新たな試みが動き出しています

無尽蔵プロジェクト『環境(エコ)シティ』では、国の『緑の分権改革』調査事業に採択された取り組み以外にも、さまざまな環境活動が進んでいます。

【その1】 バイオディーゼルの燃料(BDF) 100%でゴミ収集車を運行

市では、平成17年度から家庭で使われている天ぷら油などの分別回収を実施し、再利用する取り組みを進めてきました。こうした廃食用油を原料に地球温暖化などに効果があるBDFの可能性を検証するため、事業者と協働してモデル事業に取り組みんでいます。

BDFは、燃焼に

よって二酸化炭素を排出しても、大気中の二酸化炭素の総量が増えない(カーボンニュートラル)のでクリーンな燃料といわれています。
そこで廃食用油をBDFに精製し、ゴミ収集車の燃料に活用できないか検討し、平成20年度に世界でも先進的となる、ハイブリッド仕様のゴミ収集車にBDFを導入しました。昨年には同仕様の車両をもう1台導入しました。今後ともBDF導入のための実証実験を続けていきます。



そこで廃食用油をBDFに精製し、ゴミ収集車の燃料に活用できないか検討し、平成20年度に世界でも先進的となる、ハイブリッド仕様のゴミ収集車にBDFを導入しました。昨年には同仕様の車両をもう1台導入しました。今後ともBDF導入のための実証実験を続けていきます。

【その2】 中村原埋立処分場での 菜の花栽培

中村原埋立処分場では、昭和47年から平成10年まで一般廃棄物の埋め立てを行っていましたが、現在はソフトボールやゲートボールなどを楽しむ広場として利用されています。

平成21年度に本市の豊かな自然環境を生かしたクリーンエネルギーへの取り組みを具体的に推進するため、「菜の花プロジェクト推進事業」がスタートしました。

昨年度は、広場の一部(約450平方メートル)に地元のか



たと協働で菜種をまき、花を楽しみ、収穫した菜種から油を搾りました。そして、家庭で使用した菜種油を回収してBDFとして精製し、ゴミ収集車の燃料としました。
昨年11月には、多くのかたにご協力いただき二回目となる「種まき」が行われ、今月末には花の見頃を迎えます。今後は、事業で得られた手法を生かし、市内各所に取り組みの輪を広げたいと考えています。



～つどおう 知ろう つながろう～

環境ネットワークまつり 開催

環境(エコ)シティでは、環境活動の現場に直接足を運び、環境保全・再生に取り組むさまざまな団体の活動を調査してきました。

本プロジェクトは、各団体の人々が『つどい』それぞれの活動を『知り』そして『つながる』ことで、より多くのかたが参加し、活動の輪を広げていくことを目指しています。

その第一歩として、日頃から環境活動に取り組む市民団体や企業の活動発表と、小田原の環境の現状と今後の方向について語り、交流するためのイベント「環境ネットワークまつり」を開催します。

【日時】3月13日(日)
午前10時～午後4時
【場所】小田原地下街

【内容】

<つどおう>

オープニング

<知ろう>

市民が中心に行っているプロジェクトの発表

<つながろう>

環境団体活動紹介

<つながる心・つながる命>

■講演

○森の再生からブリの来るまちへ

石戸谷博範さん

(神奈川県水産技術センター相模湾試験場)

○魚つき林の再生

上田勝彦さん

(水産庁加工流通課長補佐)

■フリートーク

【出演】石戸谷さん・上田さん

【司会】野中ともよさん

■約50の市民団体や企業の環境活動の発表・展示